

2024年1月4日

ケネディクス株式会社

代表取締役社長 宮島 大祐

ケネディクスグループ年頭所感

2024年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、アメリカにおける金利上昇やそれに端を発した米国地銀の破綻等、やや雲行きをあやしい局面もありましたが、大きな混乱もなく一年を乗り越えることができました。

このような環境下でしたが、ケネディクスグループは、上場3 REITの合併、私募 REITの2度の増資、私募ファンドでの大型案件の組成など、2025年中期経営計画の達成を目指し着実な歩みを進めることができ、受託資産残高（AUM）は3兆円を突破しました。また、新たなビジネスプラットフォームも着実に芽吹き始めています。

「不動産セキュリティ・トークン（「不動産 ST」）事業」では、過去最大規模となる資産規模300億円のタワーマンションを投資対象とする不動産 STをはじめ、5案件・717億円相当の不動産をセキュリティ・トークン化することができました。また、第9弾となるホテルを投資対象とした不動産 STは、本邦初の公募型不動産 STとして、大阪デジタルエクステンション株式会社が運営する私設取引システム（START）での売買取引が開始されました。「賃貸戸建住宅ファンド」では、2,200戸・960億円まで運用物件を積み上げるとともに、国内機関投資家と賃貸戸建住宅では日本初となる私募ファンド組成を実現しました。「再生可能エネルギーPPA事業」においても、ケネディクス・グリーンエネルギー株式会社を設立し、グループ REIT への再エネ電力の供給を開始しました。

2024年も、「REIT」「私募ファンド」といった安定的な事業の柱に加えて、これらビジネスプラットフォームによる飛躍的な成長を目指してまいります。

「不動産 ST事業」については、引き続き不動産 STの組成を加速させるとともに、本格稼働した STARTを活用した不動産 STの流動性の向上、投資家向けのアプリ開発など、不動産 STの魅力さをさらに高めることで、REIT・私募ファンドに次ぐ第三のアセット・マネジメントのプラットフォームとして育ててまいります。「賃貸戸建住宅ファンド」においても、引き続き運用物件を着実に積み上げるとともに新たな私募ファンド組成等により多くの投資家の皆様へ新しい投資商品の選択肢を提供してまいります。「再生可能エネルギーPPA事業」では、引き続き発電事業者との協業を拡げることで事業を推進し、グループ REITの100%再エネ電力化に向けサポートしてまいります。

ケネディクスグループは不動産の限りなき可能性を切り拓くことで、これら事業の飛躍的な成長、またそれを実現するための運用力の強化を全員で目指してまいります。

以上